

風土記の丘の花だより²⁴⁴

今、そしてこれから見られる植物(2024年7月13日)

猛暑がやっと落ち着いたように感じます。でも梅雨明けはまだ先のようです。ユリの花がさいたので、今回はまずそれから紹介することにします。

万葉植物園に植えられているユリが見事な花を咲かせてくれました。白い花はヤマユリのようで、



カサブランカのようにも見えるし、またそれとは別にカノコユリみたいな模様のユリも咲いています。どちらも華やかですが品種までは分かりません。

谷山家住宅の庭で



はオレンジ色のオニユリが咲いています。これをご覧いただく頃には、園内のあちらこちらでも咲いていることでしょう。こんなにきれいな花なのにどうして「鬼」なんて名前を付けたのでしょうか。オニユリの葉の付け根には小さなむかごが付いています。それが落ちて芽を出して、仲間を増やしていきます。ユリではもうすぐ咲くウバユリも楽しみです。咲いたら紹介します。



次はとても小さなウリクサの花です。横に写っているアリと比べると、いかに小さいかお分かりですね。ほんのりと紫がかった色で、よく見るときれいな花です。これは小早川家の庭で撮りましたが、どこにでも生えている、ごくごくありふれた雑草です。元々農耕民族である日本人は、田畑に生える雑草を嫌うと聞いたことがありますが、雑草もよく見るとかわいいものです。草むしりの際には、一つひとつ草の名前を呼び、ごめんね、ごめんねとつぶやきながら・・・そんな事をしていたら、仕事になりませんね。



谷山住宅の庭に紫色の房のような花が垂れ下がって咲いています。トウフジウツギの花です。前まではっきりしないまま「フジウツギ」という名札を付けていましたが、花の外側に白っぽい毛がはえているようなので、この名前に変えました。フジと付きますがフジの仲間(マメ科)ではなく、フジウツギ科の植物です。「トウ」は唐のことで、中国あたりから渡来したのでしょうか。別名をリュウキュウフジウツギというそうですが、いずれにしても、もともと日本にあった植物ではないようです。

松下